

## 社員が仕事と ライフイベントを両立しながら 意欲的に働けるしくみづくり

新入社員の増加に伴い若年層の比率が高まる中、育児・介護等の制度を利用しやすい職場環境を整備するため、社内アンケートなどを通じて現状を分析。プロジェクトメンバーとともに対策を立案し、推進した。

▼  
取り組み内容

**Step 1** 現状把握と仮説設定  
昨年実施した取り組みや社内データ及び就業規則を確認し、現状把握と仮説設定を行った。

**Step 2** 検証と課題抽出  
仮説の検証のため、社内アンケートを実施。加えて社員へのヒアリングを行い、課題を抽出した。

**Step 3** 課題の優先順位を整理  
抽出した課題から、すぐに社員へ効果として表れるものと、中長期で浸透させていくことを整理した。

**Step 4** 行動計画の策定  
仕事と各ライフイベントを両立しながら意欲的に働ける会社を目指し、2025年度から取り組んでいく一般事業主行動計画を策定。

富山 “Re-Design” ラボ 事例  
CASE:

## 仕事と生活を 両立しやすい 環境づくり

十全化学株式会社  
JUZEN CHEMICAL CORPORATION

受入企業

十全化学 株式会社  
総務部長 谷川 一樹 さん

1950年設立。医薬原薬と重要中間体の受託製造、及び医薬品開発支援事業を手掛ける専門メーカー。開発初期段階の提案から商用生産に至るまで、顧客の求める品質、安定供給、スピードを実現する課題解決力を強みに、世界の製薬企業の研究開発支援から、小ロットの治験薬製造、大ロットの商用品の安定供給までをワンストップで提供している。

協力研究員

及川 奈穂美 さん

東京都出身。大学卒業後、不動産・建設事業を中心に国内外で幅広く展開する企業に入社。20年以上にわたって在籍し、営業や中小企業のコンサルティング、人事などの業務に携わってきた。営業や本部業務で豊富な経験を有し、近年では人事関連の資格も取得し、スキルに磨きをかけている。

取り組みの成果  
・  
今後の取り組み

- ・「女性活躍」という限定的な表現を全社員が当事者となる「両立支援」という表現に変更。役員はじめ、このテーマの本質的課題を認識し、社員の意識変革に寄与した。
- ・制度を変えるよりも、社員への「制度の理解」「制度利用状況の周知」が優先事項であると明らかにした。
- ・両立支援を浸透させていくため、社内広報にとどまらない継続的な活動を重視し、社員からメンター・推進役として「両立支援サポーター」の創出を提案した。
- ・両立支援に継続的に取り組むため、来年1月からの運用開始に向けた一般事業主行動計画を策定した。

🐞 受入企業の評価・今後の関わり方

参加理由

- ・弊社社長の廣田は、都市部への一極集中とは違う、地方で暮らし、働くことの豊かさを広めたいとの想いを持っていました。廣田の知人が以前、研究員としてこのプログラムに参加していたこと、会社として外部の知見の導入に積極的だったことも応募のきっかけになりました。

評価（成果・社内変化など）

- ・すでに社内でも同テーマの活動は始まっていましたが、より広い視野で、本質的な打ち手を考えていく必要性を感じていました。そんな私たちの課題感に及川さんはしっかりと応えてくれました。今後も社内でも自走できるよう目指すべき方向性を示してくれた上、足掛かりとなる具体的な取り組みも進み、期待以上の成果をあげてくれました。
- ・それまで使っていた「女性活躍」という文言を「両立支援」に置き換える提案により、社員の意識が変わり、性別・年齢を問わず、育児・介護を自分ごととして捉える雰囲気社内にも生まれたと思います。
- ・及川さんは自律的に考え、行動できる人です。メンバーからの信頼も厚く、社員に寄り添ってプロジェクトを進めてくれました。

今後の関わり方

- ・及川さんには引き続き一般事業主行動計画の策定をお手伝いいただきます。計画がまとまれば、ほぼ自走できる状態になりますので、1月以降は計画に沿って両立支援に向けた諸活動を進めていきたいと思っています。

👤 協力研究員の評価・今後の展望

参加理由

- ・新たなチャレンジの場を模索しているタイミングで、富山“Re-Design”ラボを知りました。リカレント教育に興味があったほか、人事分野に課題を抱えたエントリー企業もあり、これまで培ってきた経験が活かせるのではないかと思いました。

評価（取り組み・生活）

- ・「両立支援サポーター」を募集するための説明会では、男性育児休業取得者や介護経験者からも参画意志があり、一番最初に取り組んだ「女性活躍」から「両立支援」へと意識の変化が進んだことを実感しました。
- ・リカレントプログラムのケース演習はディスカッション中心で、先生や様々な経験をもつ研究員の皆様からアドバイスをいただくことで、新たな発見繋がりました。また、ゼミでは現役学生の方々と意見交換をする事で多くの刺激をいただき、私自身の活性につながる良い機会となりました。
- ・自然を身近に感じ、その移ろいを感じながら暮らすことで気持ちが豊かになり、仕事にもプラスの影響があったと思います。

今後の展望

- ・プログラム終了後も、両立支援をサポートする予定です。この半年間で生活や仕事をする上で、富山の環境の良さを知ることができたので、今後も富山・北陸と関係を持ち続けていきたいと思っています。